

自然と人がとけあう 活力あふれるまち なかがわ

～「ずーっと住みたい」まちを目指して～

1. これまでの那珂川町

第4次総合計画では、将来像として「水と緑、暮らしがとけあうまち なかがわ」を掲げ、まちづくりに取り組んできました。これは、従来の開発中心のまちづくりが曲がり角に来たことをうけて、那珂川町の資源である「水と緑」を大切にしながら個性豊かな生活環境をつくっていくこととあわせて、人と人の新たな「つながり」を生み出すことを強く意識して設定されたものでした。

2. これからの那珂川町

住民の声を聞くためのアンケートの結果では、福祉や子育ての環境に関する利便性や快適性を求める声が高くなっています。以前は、「上下水道や道路の整備」といったインフラ面での利便性が多く求められていましたが、インフラ面の整備が進んできたことによって、求められる利便性が変化しているといえます。しかしながら一方で、住みごちについては以前と「変わらない」と感じている人が多いようです。

生活環境一般に関する満足度では、那珂川をはじめとする自然について高い満足度を維持しています。那珂川町を思い浮かべる際に自然なくして語ることはできません。第4次総合計画以前から町民憲章（昭和57年制定）、第3次総合計画（平成3年度～平成12年度）でも将来の目指す姿として、自然を大切にすることをまちづくりの1つの基本としてきました。今回のアンケート結果でも「自然は町の象徴」であるという考えが強くなっています。

全国的に人口の減少、少子高齢化が進むなかで、那珂川町における高齢化率はまだ他の自治体と比べると低い水準にあり、また出生率は高く、若年者の割合が高いのが現状です。しかしながら、いずれ那珂川町でも少子高齢化が進み、単身者世帯や核家族が増えることが予想されます。そのような少子高齢化社会のなかで、住みごちのよさをさらに向上することによって、私たちの那珂川町に住みつづけてもらう、あるいは「ずーっと住みたい」「戻ってきたい」と思ってもらうことが必要だと思えます。

3. 「ずーっと住みたい」まちを目指して

「ずーっと住みたい」まちの実現に向けて、私たちが必要とするものを「自然と人がとけあう 活力あふれるまち なかがわ」という言葉に託します。

(1)自然

今まで引き継がれてきた那珂川町の自然は、町の象徴であるのと同時に私たちが癒しや恵みを享受することのできる大切なものであり、これから先も大切に守っていかなければならないと思います。

(2)人

那珂川町の主役はもちろん「人」です。また、那珂川町のまちづくりを動かしていくのも「人」です。私たちは地域やまちづくりのために活動する人材の発掘や育成を行い、次世代を担う子どもたちを私たちが大切に守ってきた自然の中で育てることによって、子どもから高齢者まで誰もが元気なまちであってほしいと思います。

(3)とけあう

「とけあう」という言葉に、私たちは2つの意味を込めたいと思います。

1つ目は「自然と人」です。

自然を守り、残すことは必要です。しかしながら、自然を守るだけでは私たちは生きていくことができません。私たちは「町の象徴」としての自然だけでなく、「調和・共生できる」自然も求めています。私たちの暮らしの中で失われつつある自然を破壊することなく、第4次総合計画で目標としてきた、自然と人が「とけあう」ことを継続していくことが不可欠だと思います。

2つ目は「人と人」です。

平成21年7月に近年まれに見る集中豪雨による災害が発生しました。災害から学んだことの1つが、災害発生時は、行政はもちろん地域の人々の支えあいが必要であるということです。災害発生時だけに留まらず、地域の人々が支えあうしくみはまちを動かしていくうえで大切だと思います。

人と人とのふれあい・支えあいを増加させるような、人と人が「とけあう」しくみづくりが必要だと思います。

(4)活力あふれる

高齢化の進展に伴って、今後は自分の居住する地域で活躍する高齢者が増えることが予想されるとともに、若年者の多くは那珂川町で子どもを産み、育てています。そうしたことをふまえて、インフラ面だけにとらわれない福祉サービスの充実や子育てをしやすい環境、安全安心で地域に対応した環境の整備といった暮らしの基盤を維持・向上することによって誰もが生き生きとした活力のあるまちになってほしいと思います。